

一般財団法人主婦会館

2020年度 事業報告書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

1. 運営事項-----	1
1.1. 理事会および評議員会の開催	
1.2. 役員および評議員	
1.3. 機構と職員	
1.4. 活動概況	
1.5. 財務状況	
2. 公益活動-----	3
2.1. 調査研究事業	
2.2. 相談事業	
2.3. 各種研究会、講習会、展示等の開催事業	
3. 収益事業（貸会議室、宴会、レストラン、カウンセリング）-----	6
3.1. 貸会議室・宴会の売上・利益	
3.2. 「コロナ」感染対策	
3.3. 施設や設備・備品類での対応	
3.4. 「コロナ」感染予防を意識した料理作りおよび提供	
3.5. レストラン	
3.6. 主婦会館カウンセリング室の運営	
3.7. 各チームの活動	
3.8. 広報対応	

1. 運営事項

1.1. 理事会および評議員会の開催

《理事会》一般財団法人主婦会館第12回理事会 2020年6月2日（火）書面決議

- 〔議案〕
1. 2019年度決算報告の件
 2. 2019年度事業報告の件
 3. 2020年度予算（案）、事業計画（案）については確定次第、次回理事会に上程する件

《評議員会》一般財団法人主婦会館第8回評議員会 2020年6月22日（月）書面決議

- 〔議案〕
1. 2019年度決算報告の件
 2. 2019年度事業報告の件
 3. 2020年度予算（案）、事業計画（案）については確定次第、次回会議に上程する件

《理事会》一般財団法人主婦会館第13回理事会 2020年8月26日（水）書面決議

- 〔議案〕
1. 2020年度事業計画（案）の件
 2. 2020年度予算（案）の件

《評議員会》一般財団法人主婦会館第9回評議員会 2020年9月16日（水）書面決議

- 〔議案〕
1. 2020年度事業計画（案）の件
 2. 2020年度予算（案）の件

1.2. 役員および評議員（五十音順）（2020年3月31日現在）

(1) 理事7名

- | | | |
|-------|------|---------------------------|
| （非常勤） | 有田芳子 | 主婦連合会会長 |
| （非常勤） | 石岡克俊 | 一般財団法人主婦会館理事長、慶応義塾大学大学院教授 |
| （非常勤） | 笹川博子 | 日本生活協同組合連合会常務理事 |
| （常勤） | 杉山達郎 | 一般財団法人主婦会館常務理事 |
| （常勤） | 田中和生 | 一般財団法人主婦会館総務部長 |
| （常勤） | 土居敬和 | 一般財団法人主婦会館副理事長 |
| （非常勤） | 永縄恭子 | 日本女性法律家協会副会長、弁護士 |

(2) 監事2名

- | | | |
|--|-------|---------|
| | 足立則夫 | ジャーナリスト |
| | 佐野真理子 | 主婦連合会参与 |

(3) 評議員6名

- | | | |
|--|-------|---------------------------|
| | 今成知美 | 特定非営利活動法人アスク代表 |
| | 岡田光一郎 | 東京税理士会相談役、税理士 |
| | 角田禮子 | NPO法人関西消費者連合会理事長 |
| | 納米美恵子 | 特定非営利活動法人全国女性会館協議会代表理事 |
| | 樋口恵子 | 特定非営利活動法人高齢社会をよくする女性の会理事長 |
| | 広岡守穂 | 中央大学法学部教授 |

1.3. 機構と職員（2021年3月31日現在）

常勤理事3名、常勤顧問1名、職員22名、パート23名 ※（ ）内パート等 単位：人

合計 22 (23)	男 8 (13)、女 14 (10) 職員平均年齢 44.6 歳 平均勤続年数 9.9 年	
公益事業部合計 4 (0)	企画	男 0 (0)、女 4 (0)
d X チーム合計 1 (0)	d X 推進	男 1 (0)、女 0 (0)
営業本部合計 14 (15)	営業部	男 2 (0)、女 5 (0)
	ゲストサービス部	男 2 (8)、女 1 (1)
	調理部	男 3 (2)、女 1 (4)
総務部合計 3 (8)	カウンセリング	男 0 (0)、女 0 (4)
	総務部	男 0 (1)、女 3 (1)
	施設管理室	男 0 (2)、女 0 (0)

上記人員に加え、4月のみ2名9日間のサービススタッフの応援を得て、業務を推進した。またコロナ禍の影響を受け勤続年数の短く年齢の若い3名が退職し、平均年齢が若干上がった。

1.4. 活動概況

- ①公益事業においては、主婦連合会事務局と連動して計画した事業に取り組んだが、新型コロナウイルス（以下「コロナ」という。）により中止も相次いだ。
- ②収益事業においては、2020年の初めに確認された「コロナ」により、宴会予約がほぼキャンセルとなった。会議の開催も激減したが、Web会議の需要を先取りし、体制を整えて積極的に誘致を図り、既存顧客に加え、新規開拓による売上獲得を図った。残念ながら会議・宴会合計では昨年度に引き続き収支赤字決算となった。1年経過した現時点でも、第3波に次ぐ第4波の不安が広がっており、依然として厳しい経営環境が続いている。お客様に安心してご利用頂けるような対策を講じて可能な限り売上・利益を伸ばすことを目標として活動した。
- ③資金調達が急務となり、これまでの取引銀行に加え、日本政策金融公庫からの融資、国（経産省、厚労省）および東京都への給付金を申請した。具体的には持続化給付金（200万円）、雇用調整助成金および緊急雇用安定助成金（4月から3月まで累計でおおよそ4,080万円、40万円）、テレワーク助成金（120万円）などがあり、収支・経常損益において（25.6%）を占めるものとなった。また、経費削減を目的として立ち上げた第2次ムダ追放プロジェクトによるコストの見直しを昨年に引き続き進めた。
- ④「コロナ」禍での営業を続けるため、まず従業員に対してマスクの着用、うがい、手洗い、検温を徹底させ、飛沫防止対策を講じるなど安全を確保した上で、お客様の安心・安全確保の徹底のために、国・自治体が要請する「新しい生活様式」に準じた施設・設備としてお客様に利用いただける機会拡大を図った。Web会議への対応として、飛沫感染防止アクリルパネルの設置、施設における安心・安全対策に注力し、これら安全対策をホームページでの告知およびDMで波動的に情報を発信した。Web会議に対応する専用機材を拡充、外部専門業者との連動、会議室担当スタッフの機材に対する技術的な向上により、顧客満足度の高揚に取り組んだ。また、安全確保の観点から、当館で提供する料理・食材の管理に関し、HACCP制度を確実に運用した。
- ⑤収束が見えない「コロナ」の感染予防対策として従業員の安全を担保するため、テレワークを導入、リモート会議や打合せを試行した。また業務効率・改善のためにdXチームを昨年12月に発足さ

せた。

- ⑥給与等では職員に対し夏期および冬期賞与を減額支給せざるを得ず、8月の定期昇給も実施を見送った。また、12月には従業員を集め、会館の財務状況や今後の運営方針等の説明を行い、勤務している従業員の雇用確保を宣言した。

1.5. 財務状況

1.5.1. 事業比率

公益事業（相談事業、講座、セミナー等）と収益事業（貸会議室、宴会、レストランエフ、カウンセリング）の総収入は167,889千円で内訳は公益事業158千円（0.09%）、収益事業167,732千円（99.9%）であった。

1.5.2. 全体状況

▲162,160千円の赤字決算となり、2年連続の赤字となった。

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
経常収益	548,293千円	540,180千円	461,638千円	167,889千円
経常費用	524,095千円	534,744千円	466,334千円	330,049千円
経常利益	24,194千円	5,436千円	▲4,695千円	▲162,160千円
利益率	4.4%	0.1%	▲0.1%	▲96.6%

収入の落ち込みは「コロナ」の発生により2月後半以降の予約が軒並みキャンセルとなり、かつ直前のキャンセルであっても正規のキャンセル料金は受け取りがたく、厳しい状況が続いた結果である。

1.5.3. 経費削減の徹底

経費削減を推進するために新たにムダ追放推進チーム（第2次）を結成し、これまで手を入れていない契約条項等を含め多岐にわたる是正を行った。また、人件費を削減するべく、超過勤務にならないように業務の再調整により、出来る限り定時での終業、帰宅を徹底させた。

2. 公益活動

2.1. 調査研究事業

消費者問題に関する調査研究

今年度は実施せず。

2.2. 相談事業

2.2.1. 消費者相談室〔毎週火曜・木曜日、10:00~16:00、無料〕

消費生活相談員（消費生活アドバイザー）1名が担当。来室（面接）、電話、文書（メール含む）による合計16件の相談を受け付けた。通信サービス、解約に関する相談が多く寄せられた。内容別としては契約・解約が11件、表示・広告が3件、接客・対応が1件、品質・機能が1件であった。

2.2.2. ティーンズカフェ(女の子のためのこころと体の相談室)〔予約制1回30分、無料〕

10代の女の子の体・こころ・性に関する悩みなど多様な心配事を気軽に相談できる無料相談室を

実施した。今年度、相談は寄せられなかった。

2.2.3. ほっとサロン・シングルマザーグループ相談会

2.2.3.1. シングルマザー定例グループ相談会（無料）

NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむの協力を得て、母子家庭や離婚を考えている女性を対象に、参加者同士の情報交換や交流、相互援助を通し、個々の悩みや不安、心配事、疑問などを少しでも解消し、子供とともに安心して生活できるよう支援することを目的として開催した。

2020年6,9,11月、2021年3月に計4回実施、計12人が参加した。

2.2.3.1. 教育資金準備のためのセミナー

今年度は「コロナ」のため実施しなかった。

2.2.4. 住まいの相談室

マンション維持管理講座・相談会〔12月20日（土）〕

マンション生活と管理組合を支援する「マンション維持管理支援専門家ネットワーク」の協力を得て、講座と相談会を行い、39人が参加した。

2.2.5. 税務相談

2.2.5.1. 定例無料税務相談〔毎月第1金曜日、13:00～16:00〕

東京税理士会麹町支部との共催で毎月1回税務相談を実施した。不動産、相続および贈与などを主とした所得税および資産税関連が大半を占め、10件の相談があった。

2.2.5.2. 確定申告無料相談会

2月16日～19日で予定していたが「コロナ」の感染防止のため、実施せず。

2.2.6. モラハラからの避難プロジェクト〔2020年6月20日（土）、7月18日（土）、9月12日（土）〕

家庭内でDV被害に遭っていても、どうやって避難したらよいかわからない方へDVに詳しく実務経験のある専門家がピンポイントでアドバイスをする座談会形式の講座をオフィスウィンド（モラルハラスメント被害者同盟）の協力で開催した。計16人が参加した。

2.2.7. 法律相談

2.2.7.1. 定例有料法律相談（常設）

日本女性法律家協会との共催。主な相談として夫婦（離婚、DV）、親子問題、男女関係、遺言・相続など25件であった。他所での同様の取り組みも増え、相談件数は減少傾向にあるが、女性弁護士に対する期待は大きいと考え継続実施した。

2.2.7.2. 無料法律相談

全国女性税理士連盟東日本支部の協力を得て、2020年4月18日（土）に実施を予定していたが、「コロナ」の感染防止のため、実施せず。

2.3. 各種研究会、講習会、展示等の開催事業

2.3.1. 消費者セミナー2020

消費者問題についての知見を深め、消費者の権利実現のための活動に活かすことを目的として一般消費者を対象として開催した。主婦連合会との共催で行った。

「SDGsって何だろう～ゲームで体験！つながる世界～」〔3月31日（水）〕

講師：織朱實氏

SDGs(持続可能な開発目標)達成に向けて、何ができるのか、2030年までの世界の変化についてゲームを通じて体験するセミナーを開催し、16人の参加があった。

2.3.2. 上映会（継続事業、内容は新規）

今年度は実施しなかった。

2.3.3. 講演会・シンポジウム

「尾竹永子が語る災害とアート-東日本大震災からコロナ禍まで-」〔8月7日(金)～9月30日(水)〕
東日本大震災と正面から向き合い、ムーブメントアーティストとして幅広い活動を展開する尾竹栄子さんの講演を男女共同参画と災害・復興ネットワークとの共催で Web 配信を行った。

2.3.4. 「健康/権利」エデュケーター養成講座 講師：島沢二三子氏

小、中、高等学校で、性の問題を扱う授業に招かれる看護師などがより深い理解に基づいた授業ができるよう、「命の大切さ」、「人権としての性」という概念について学ぶ場を提供した。「コロナ」のため、中止となる学校もあったが、全5回、延べ57人の看護師の参加があった。

2.3.5. こころのケア講座（毎月1回）

DVの被害者など、深い傷つきをかかえ心のケアを希望する女性に、DVの構造や心の傷のケアについて学ぶ講座を開催した。NPO法人レジリエンスのスタッフがファシリテーターを担当。4、5月は「コロナ」の緊急事態宣言発令中のため中止となったが、延べ71人の参加があった。

2.3.6. ファシリテーター養成研修

2.3.6.1. 「ファシリテーター養成研修修了者のためのフォローアップ講座」〔12月12日(土)〕

研修修了後に生じた問題点等を解決し、より良い形での資料の活用を目指すことを目的とした。オンライン併用で開催し、会場6人、オンライン32人の参加があった。

2.3.6.2. 「デートDV編」〔12月13日(日)〕

中・高・大学での1時間の講座を担えるファシリテーターを養成し、首都圏以外の地域でも、広く「デートDV」に関する講座が開催されることを目的とした講座をオンライン併用で開催した。会場4人、オンライン30人の参加があった。

2.3.6.3. 「こころのケア講座編」〔1月23・24日、2月13・14日、3月13・14日〕

NPO法人レジリエンスの協力を得てDVの被害者や人間関係等で傷つきを抱えた女性たちをエンパワメントするため、12回の連続講座「こころのケア講座」を開催することができるファシリテーターを養成する講座を開催した。全国各地で広く「こころのケア講座」が開催され、一人でも多くの女性がさまざまな観点からDVについての知識を深めると共に自身の与えられたパワーを再確認しながら、新しい自分の姿を見つめ直し、再出発する機会を提供することを目的とした。オンライン併用で開催し延べ会場6人・オンライン82人の参加があった。

2.3.7. ひとり親サポーター養成講座

今年度は実施しなかった。

2.3.8. シニアシングルズセミナー〔11月7日(土)、12月5日(土)〕

わくわくシニアシングルズとの共催で、高齢単身女性の半数以上が貧困状態にある現状を「社会保障・税制度」から考えていく連続セミナーをオンライン併用で開催し、延べ48人の参加があった。

2.3.9. 消費者問題に関する展示

1Fロビーで一般来館者へ情報提供をするため展示（エレベーターホールも含む）を行った。

① 2019年4月～6月 ファッションで子ども・児童を交通事故から守る！

かわいく・かっこよく・おしゃれな高視認性安全服

協力：一般財団法人ニッセンケン品質評価センター、学校法人文化学園文化服装学院

- ② 7月 脱原発（NO NUKES）POSTER 展
- ③ 8月～9月 インターネットの安心安全利用～子どものためにできること～
協力：安心ネットづくり推進協議会
- ④ 10月～11月 ピクトグラム（図記号）知ってますか？
協力：経済産業省、一般財団法人日本規格協会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
- ⑤ 12月～2021年2月 「税の作文・標語」作品展
主催：麴町税務署、麴町納税貯蓄組合連合会、公益社団法人麴町法人会、一般社団法人麴町間税会
- ⑥ 2020年3月～ 乳幼児・子ども服の有害物質の化学分析結果

2.3.10. 奥むめお・主婦連合会に関する展示および資料保存・管理

3階の展示スペースおよび展示室において、一般の方を対象に主婦会館と主婦連合会の創設者である奥むめおおよび主婦連合会の歴史についての展示を継続して行った。奥むめおに関する資料・書籍について収集・整理を行い、データベース化のためのリストを作成した。

2.3.11. 北ドイツ反原発アーカイブ パネル貸し出し

ドイツのゴアレベン・アーカイブから寄贈された反原発ポスター類は、歴史的・文化的資産として貴重な資料であり、「北ドイツ反原発アーカイブ@プラザエフ」として管理している。

今年度は、パネル貸し出しは行わなかった。

2.3.12. 産直市（全4回）

安心で美味しい全国各地からの産地直送の農作物、加工食品などを、「農民連ふるさとネットワーク」の協力を得て、2020年6月、10月、12月及び2021年3月の各2日計8日間、当館正面玄関前で販売した。

3. 収益事業（貸会議室、宴会、レストラン、カウンセリング）

3.1. 貸会議室・宴会の売上・利益

「コロナ」の感染拡大で先行きが見えない状況下にあって、前年度に続き売上・利益とも大幅な減収減益となった。「コロナ」禍の影響で新たな働き方として広がったテレワークや自宅待機は、会議室利用需要に大きな変化をもたらした。ZoomなどによるWeb会議、LIVE配信のような通信システムを活用した新たな会議プランなどオンラインに特化した提案や案内リーフレットによる販売を展開し、既存顧客に加え新規顧客の獲得につなげた。大幅に改修した会館HPを活用した告知や顧客宛DMにより、できる限り具体的、体系的なプラン説明やイラストを駆使して波状的に広報活動を展開した。オンライン関連の備品等を充実させて当館スタッフで出来る限り対応できるよう研修を行い顧客満足・利益確保を行った。

3.1.1. 収支概況

会議・宴会の売上目標1億5,830万円に対して1億599万円、達成率66.9%（会議89.7%宴会11.9%）であった。Web会議の需要が増えたが機材設置や会議運営を専門業者に外注する件数が多く、売上と共に業者への支払いが増え、結果として会議の粗利益率が前年比26.3%となった。また宴会が予想以上に回復しなかった為、会議・宴会合計の粗利益率が前年比20.4%と大幅な減収になった。売上の動向は「コロナ」感染状況に符号し、第1四半期は緊急事態宣言の影響でキャンセルが増加

し前年に比べ1/8に急減、第2・第3四半期に少し持ち直すも、第4四半期の2回目の宣言で再び減少し、年間ベースで前年比25.8%となった。

2020年度売上・粗利益状況

		2020年度			前年度(2019年度)		
売上	実績	1億599万円	会議	1億44万円	4億1,030万円	会議	1億8,940万円
			宴会	555万円		宴会	2億2,089万円
	達成率	66.9%	前年比	25.8%			
粗利益	実績	5,799万円			2億8,450万円		
	前年比	20.4%					

会議・宴会別売り上げ分析

		2020年度実績	2019年度実績	前年比	対前年比率
会議	件数	963	1,909	▲946件	50.4%
	人数	18,038	68,534	▲50,496人	26.3%
	1件あたり人数	19	36	▲17人	52.2%
	単価	5,568	2,793	2,775	199.4%
	売上	1億44万円	1億8,940万円	▲8,896万円	53.0%

		2020年度実績	2019年度実績	前年比	対前年比率
宴会	件数	47	798	▲751件	5.9%
	人数	911	39,133	▲38,222人	2.3%
	1件あたり人数	19	49	▲30人	39.5%
	単価	6,092	5,637	455円	108.1%
	売上	555万円	2億2,089万円	▲2億1,534万円	2.5%

- ・従来、会議に比べ宴会の客単価が高かったが、Web会議の機材・運営の追加コストおよび広めの会場への誘導で利用人数が少なくなったことが影響し、会議の単価が宴会に近づく結果となった。
- ・宴会においても立食形式から個々盛りにすることで単価が若干上がった。
- ・法人と個人別利用状況で見ると、個人利用の会議や宴会が減ったことが影響した。
- ・「コロナ」の影響が顕著となった2020年3月単月を前年同月と比べると、会議では件数で192件、人数で約8,100人、宴会で81件、3,900人の減少となり、前年に比べての過去最大の減少幅となった。

3.2 「コロナ」感染対策

「コロナ」感染拡大防止のため、国・自治体が求める「新たな生活様式」に対応した種々のお客様接遇について、リーフレット類を作成し積極的な案内を徹底した。具体的には3密を避けるためのレイアウト、広めの会場への提案誘導、会場内の定期的な換気、飛沫感染防止パネルの設置や貸出など。会館ホームページと連動した告知を効果的に進めた。

3.3. 施設や設備・備品類での対応

「コロナ」禍に対し、お客様に安全・安心してご利用いただくため必要な備品類を最優先して整えた。Web 会議運営上で必要な備品として、飛沫防止シートやアクリルパネル、マイク用抗菌ビニール袋、フェイスシールドを準備した。宴席でも着席方式として飛沫防止シートやアクリルパネルによる仕切りを準備し、できる限りのソーシャルディスタンス保持を心がけた。

3.3.1. 音響設備・映像機器対策

特に Web 会議で必要となるパソコン、モニター、マイクやスピーカーなど音響機器、カメラ、ビデオなど映像機器および接続関連機器などの手配・設置対応した。これまでの対面式会議に比べ時間的にも人的にも手間が掛かる機器配置や配線に対応するサービススタッフの知識レベルのアップのため、専門業者による講習会を実施した。

3.3.2. 空調機器の活用

空調機器をこまめに操作した。窓開けによる換気を行う場合でも、会議などの進行に支障なく安心のできる空間を維持できるようにした。唯一窓のない会場（B2F のクラルテ）では、排風機による換気を同時に行うことのお客様のご理解をいただくよう、会館HPで動作確認のビデオを公開した。

3.4. 「コロナ」感染予防を意識した料理作りおよび提供

3.4.1. 食事スタイルの見直し

これまで宴会で主流であった立食やbuffetスタイルを見直し、すべて個々のお客様に盛って提供するスタイルへ変更した。また、新たに宴席プランに二の膳会席や小会席、打ち上げプランなどを作り、短い時間で宴席が出来る様にした。HACCP（食品衛生管理システム）方式を基本として、食材の仕入れから料理提供までの工程管理を行い、日々の検温およびマスクや手袋の着用を徹底して各種ウイルス感染および食中毒等の事故を防止に努めた。

3.4.2. メニューの多様化

レストランメニューとしてこれまでの肉・魚に、神田カレーグランプリへの参加に合わせて南極シェフ特製カレーを追加した。さらにリモートワークなど仕事の仕方の変化に伴い、店内での食事に抵抗のある方や周辺オフィス勤務者をターゲットにしたテイクアウトメニューを販売開始し、フロント、レストラン、関係各部との連携でお客様へ提供した。また、これまでのアイシングクッキーに加えオリジナルドレッシングを販売開始した。

3.4.3. 儲ける調理を模索

宴会やレストランでの料理提供にとどまらず、「コロナ」禍で変わったライフスタイルに応じてテイクアウト分野に挑戦するべく、業界をリードしている宅配業者やネットビジネスで儲かる仕組みを検討している。そのための魅力あるメニュー開発や告知について専門業者との交渉を進めている。

3.5. レストラン

年間売上実績は 861 万円、前年度に比べ 44.1%となった。「コロナ」禍での緊急事態宣言の影響が大きく、レストランでの宴席は激減し、ランチ中心で営業したが、今年度開始早々から休業せざるを得ず、実施的な開店日数は 201 日と通常年に比べ激減し、非常に厳しい状況が続いた。お客様の来店を促す「コロナ」感染予防対策を徹底し、新たなメニューの提案、季節に応じたイベント開催、外販商品の品揃えなどいろいろな手立てを講じた。具体的には、内装をリニューアルし、席数を半減し、座席の間隔を十分に取るようにして、ソーシャルディスタンスを確保した。またサラダバーでは一人

一人で取り分けていただくスタイルへ変更した。店内標識を含めて安心・安全を感じていただける設えとし、評価が厳しいとされる「千代田区新しい日常店 Class II」の認証を受けた。9月から12月開催の地域イベントである「神田カレグランプリ」に初めて参加し、多くの参加者の来訪にも繋がり、メニューとして提供した「南極シェフの特製カレー」を定番の肉・魚メニューに追加した。また、物販の窓口として、従来からのアイシングクッキーに加え、オリジナルドレッシングやアイシングラムネ（商品名「必勝 ラムネ」）などを販売した。季節のイベントの新しいスタイルとして、これまでの洋風料理から和風弁当を開発、さらに春先に松花堂弁当を販売し、新たな需要を開拓した。

3.6. 主婦会館カウンセリング室の運営

昨春「四ツ谷主婦会館カウンセリング室」と改名した。収益改善策として、キャンセル料を設定し、予約をより確実なものにした。また、「コロナ」禍に対応した業務改善として初回の対面相談後のオンライン相談を開始した。売上の向上のためカウンセラーの増員を目指し募集を行ったが条件等で折り合いがつかなかったため、カウンセラー1名の交代はあったが増員までには至らなかった。

3.7. 各チームの活動

3.7.1. ムダ追放プロジェクト（第2次）

- ・光熱費では、緊急事態宣言中や予約が無い階での節電などを講じて、ガス代を前年に比べて金額で826千円、使用量で68.3%削減、電気代で4,827千円、36.1%の削減、水道代で1,287千円、66.2%削減した。
- ・廃棄物処理費では、より細かい分別により処理費を年間684千円削減した。また、食品ロスに加え、段ボールゴミの削減に取り組み、食材ではコンテナBoxによる納品へ変更した。
- ・クリーニング費削減として、常備・スポット・調理の制服のレンタルを廃止して制服を買取ることとし、併せて業者を見直して年間2,688千円の削減を実現した。
- ・会館内の修復では業者に依頼せず、館内メンバー中心にコストを抑えて作業を行った。
- ・宴会予約の激減に対応し、維持コストを抑えるためカラオケ・1台を解約した。

3.7.2. 付帯・新規事業開発推進チーム

2020年2月発足の付帯事業推進チームとは別に、5月「コロナ」禍での自宅待機時に各人からの提案を受付け、新規事業のタネを検討する提案実施推進チームを発足させた。10月これらを合体して付帯・新規事業開発推進チームとして活動した。

- ・物品販売（アイシングクッキーなど）目標268万円に対し140万円の実績
- ・施設販売・貸し（駐車場、自動販売機、携帯基地局など）目標211万円に対し215万円の実績
- ・施設貸し（教室など）目標193万円に対し25万円の実績、目標合計673万円に対し380万円（目標比56.9%）の実績となった。

新たな取り組みとして、おせちの予約受付では他社製造おせちの予約受付販売をネット受付で試みた。これまで実績のあるアイシングクッキーではオーダークッキーに加え、ラムネにアイシングをする「必勝ラムネ」をレストランとフロントで販売した。また、「コロナ」感染防止対応として、フェイスシールドや消毒スプレーを販売した。スペース有効活用の一つとして、今年3月からピラティスのレッスンを「コロナ」禍での運動不足解消、免疫力アップを目指す方に向けて開始した。

3.7.3. dXチームの発足

会館内システムの効率化を目指すIT推進チームおよび新予約管理システム導入チームを統合し、

2020年12月にdXチームを発足させた。業務推進の高効率化により、事業環境の変化にゆるぎなく対応できる体力をつけるため、以下に取り組むこととした。

- ・コスト削減および業務の省人化・自動化を推進する。
- ・現行の予約・財務等の基盤システムの統合を推進する。
- ・新しい製品やサービス、新しいビジネスモデルを創出し、競争上の優位性を確立する。

3.8. 広報対応

- ・主婦連事務局と連携して進めている相談事業や各種の会館内展示、セミナー、講演会などに対して会館および主婦連ホームページでの告知、ポスター掲示での案内を継続した。
- ・会館独自の収益事業について、ホームページでの告知だけでなく、インターネットを活用した活動、特に今回の「コロナ」感染の影響を踏まえ、当館を安全で安心して利用いただける態勢の訴求に務めた。お客様の安全を求める要望に適合したパンフレットをいち早く制作し、DM発送を行った。
- ・LINE 利用者が登録する「LINE @」を積極的に活用し、個人利用や団体利用のお客様へ適宜情報を発信した。
- ・主婦会館の知名度や売上アップの施策の一つとして、神田カレージランプリなどの地域活性化イベントに参加し、主催者側による公式ガイドブック、公式ホームページへの掲載を通じて、お客様に会館に足を運んでもらう仕掛け作りを図った。
- ・付帯・新規事業における新たな商材に対する告知をHPや紙媒体で適時対応した。

以上